

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

September 9
2023

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2023年9月1日発行(毎月一回1日発行)第789号

● 出会い・本・人

「あかがね色の本」 渡邊さゆり

● 特集 シリーズこの三冊!

今、遠藤周作を読み直すならこの三冊! 金 承哲

● 本・批評と紹介

小泉 健、楠原博行、高橋 誠、荒瀬牧彦、安井 聖、須田 拓ほか著

三要文深読 十戒・主の祈り 三浦陽子

山口希生著 ユダヤ人も異邦人もなく 関野祐二

石田 学著 第一ペトロ書を読む 吉田 新

関西学院大学キリスト教と文化研究センター編

ことばの力 市原信太郎

荒瀬牧彦編 コロナ後の教会の可能性 家山華子

ロバート・キエサ訳・注解／高祖敏明、梶山義夫翻訳協力

「羅和対訳」イエズス会の規範となる学習体系

(二五九九年版) 川村信三

ゼバステイアン・フランク著／福原嘉一郎訳／安酸敏眞解説

パラドクサ 金子晴勇

A・トムソン著／持田鋼一郎訳

アシジのフランシスコの生涯 山北宣久

関川泰寛著 キリスト教古代の思想家たち 安井 聖

マルティン・ブーバー著／稲村秀一訳著 義を求める祈り 北博

遠藤勝信著 愛の心を育む 湊 晶子



聖書の祈り31

主よ、祈りを教えてください

大島 力／川崎公平

旧約聖書と新約聖書から祈りの言葉、そして祈りについての言葉を、1日にひとつずつ取り上げて短い解説を付した31日分の黙想書。1日10分、この本を静かに読んで、心を高く上げる。そんな毎日を始めませんか。

2023年8月21日刊行予定 ◆四六判 並製・144頁・定価1,650円

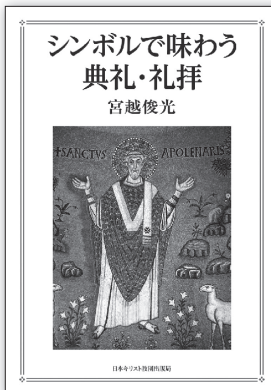
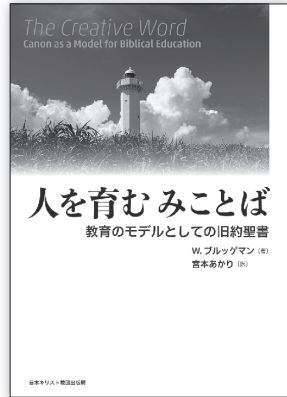
人を育むみことば

教育のモデルとしての旧約聖書

W. ブルッゲマン 宮本あかり 訳

旧約聖書の正典化のプロセスには、キリスト教教育を理解する大きなヒントがある——。当代を代表する旧約聖書学者であるブルッゲマンが、新たな視点によってキリスト教教育を聖書から解き明かす。

2023年8月25日刊行予定 ◆A5判 並製・248頁・定価3,960円



シンボルで味わう

典礼・礼拝

宮越俊光

諸教派の典礼・礼拝で用いられる所作、司式者の服装、祭具、典礼色や数字などの由来と変遷、現在の用いられ方を紹介。一つ一つのシンボルに込められた意味を味わうとき、日々の典礼・礼拝がさらに豊かになる。

2023年8月25日刊行予定 ◆A5判 並製・248頁・定価3,080円



「あかがね色の本」

渡邊さゆり

その本は、あかがね色をしています。

今から三十年以上前、私は交換留学生としてオーストラリアに住んでいました。隣家は数キロ先、牛、羊、馬が優雅に佇み、牧草が風にそよぐなどらかな丘に囲まれた生活の寂しさに心が折れました。言語コミュニケーションも想像以上に困難で留学生活の現実は無でした。そこへ一冊の本が届きました。中学校のクラス担任が「時間があつたら本を読みなさい」とメモを入れ、ミヒヤエル・エンデ『はてしない物語』（上田真而子、佐藤真理子訳 岩波書店 1982年）を送ってくれたのです。

寂寥^{せきりょう}の闇中、私は一晩でこの本を読みました。表紙があかがね色の本は物語中にも出てきます。本が開かれ冒険が始まった途端、読者自身が物語中の一人かもしれない不思議さに魅了されます。「今、私が経験していることも物語の一部で、誰かが今これを読んでいるのかもしれない」と想像力が膨らみます。読み終える頃には「目の前に現れる新しい友人たちとのたどた

どしい会話も物語の大切なエッセンスかも。何かを成し遂げることより過程が大切だ」と思い、本を閉じても物語が続いている感覚になるのです。「本当の物語は、みんなそれぞれにはてしない物語なんだよ」（エンデ）。

帰国後に知ったことです。恩師は私が悩んでいるだろうと想像し、この本を差し入れてくれたそうです。彼の優しい思いが私の身体をそとと覆ってくれる経験が私の人生にとってはかけがえのないものになり、その後、私は教師を志望しました。

本を書く人、本を売る人、本を読む人、そして本を贈る人。本をめぐる生きる人々は出会い、別れ、新しい物語を紡ぎます。「みんなそれぞれにはてしない物語」。

聖書は物語の宝箱です。まだまだ語られていないことがあるようです。続きはまた今度お話しする機会がありますように。なにせ、物語ははてしないのですから。

（わたなべ・さゆり 日本バプテスト同盟駒込平和教会牧師）



今、遠藤周作を読み直すならこの三冊！

金 承哲

(きむ・すんちよる・南山大学人文学部教授)

フランス留学中の青年遠藤周作（一九二〇―一九九六年）を捉えたのは、将来自分の小説をどのような技法によって書くべきかという問題でした。何を書くべきかについては、遠藤はすでに考えたことがありました。欧米のキリスト教を日本の精神風土に合わせ受容すること、そのためには人間内の深部を凝視すること、それが遠藤が書こうとした内容でした。問題は、それをどのような技法によって書けばいいのか、ということでした。

偵小説的である、との視点で遠藤の作品を手にとられてはいかがでしょうか。まず以下の三作品を読まれてはいかがでしょうか。

『おバカさん』

わけのわからぬ一通の手紙は、見知らぬ人が遠方から日本にやってくることを告げていました。「見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない」あの人は、船の最下等席に乗ってきました。人々は彼のことを馬鹿にし、彼は多くの人に貶められましたが、彼は棄てられた人々の友になってくれました。

戦時中自分の兄に濡れ衣をさせて殺した上官たちを追いかける復讐心に燃える男がいました。この男自身も実は請負殺人者です。遠いところから日本に来たあの人は、この請負殺人者と一緒居ようとし、その人のあとを追

自分の小説を書くためには他人の小説を読むかありませんので、彼は多くの作品を次々に読破していきましました。そしてある日、イギリスのカトリック小説家グレアム・グリーンについての研究書を読んだとき、ついに膝を打つ瞬間が訪れました。グリーンから遠藤が決定的に学んだこと、それは探偵小説の技法を用いてカトリック信仰をテーマにした作品を書くということでした。

探偵小説とは、言うまでもなく現場

かけて旅をします。また二人の日本人兄妹があの人を追いかけていきます。ついにあの方は、請負殺人者が殺されかけた時、両手を広げながら自分がその攻撃を代わりに受け、深い湖の底に姿を消しました。しかしあの人探しに必死であった若い日本人の青年は、あの方が空の彼方に昇るのを見たような気がして、次のようにつぶやきます。

あの方は生きている。あの方は遠い国から、この人間の悲しみを背おうためにノコノコやってくるだろう、と。

『沈黙』

あの有名な江戸川乱歩によれば、一流の探偵小説であるためには次の三つの要素が必要だそうです。まずは、不思議な事件が起きます。その事件は普通にはありうるようなものではなく、一般的な考えでは信じがたい事件でなければなりません。また、その事件の真

に痕跡を残した者と、その痕跡を追いかける探偵の物語です。で、遠藤は知っていました。人が人に出会うとき、必ずそこには何かの痕跡が残る。同様に、人と神が会ったときも、そこには神が残してくれた痕跡があるはずだと。欧米と日本の精神風土との差異に悩んでいた遠藤には、実はもう一つの悩みがありました。それは、自分の洗礼が「非自発的」であったことから生じたものでした。しかしながら、たとえそれが「非自発的」であっても、その洗礼によって神は遠藤の中に決して消すことのできない痕跡を残されたはずで

す。その痕跡を追跡することを、自分の小説は書かねばならぬ。その決心により、日本のカトリック小説家遠藤周作は生まれたのです。

遠藤周作の作品といえば、すでに読み慣れておられる方も多いかと思いますが、改めて遠藤の作品の骨組みは探相を究明するために、人と人の間では緊張度の高いサスペンスが繰り広げられなければなりません。そして、もう一つの要素は、その探偵小説の結末が読者の予想を超えるものでなければなりません。小説を読みながら途中で誰が犯人なのかが見破られるような探偵小説なら、多分誰も最後まで興味津々と読もうとはしないでしょう。

この乱歩の話を頭に置きながら、遠藤の代表作ともいえるべき『沈黙』を読んでみてはどうでしょう。ローマにある報告が入る、その内容は信じがたいものだった。『沈黙』の書き出しがそのようになっていくことに改めて気づかされることとなります。その信じがたい事件の真相を調べるために、ロドリゴという司祭が吉次郎という助手を連れて日本に派遣されます。まるで名探偵シャーロック・ホームズにワトソン博士という助手がいたように。(吉

次郎はしかし有能な助手ではなく、その真逆でした。)。

それから追いかける・追いかけるの追撃戦が始まります。ロドリゴは棄教したと知らされたフェレイラ神父の跡を追いかけて、奉行の井上はロドリゴを捕らえるために追いかけてます。

ついにロドリゴは逮捕され、踏み絵の前に立たされます。しかし、そこで読者の目を疑わせるようなことが起こります。なんと、踏み絵のあの方がロドリゴに向かって「踏むがよい」とおっしゃられたのです。しかし、本当の不思議な結末、読者の予想をはるかに超える結末は、さらに後ろに書いてあります。まるで付録のように小説の末尾について、読者にもあまり読んでもらえないといわれる部分——実は遠藤はこの事実にかなり不満をもっていたそうです——、すなわち「切支丹屋敷役人日記」にこそ、『沈黙』の真

の結末が隠されています。必ず読んでみてください。

『侍』

仙台藩の下級武士支倉常長は、慶長一八年（一六一三年）のある日、月ノ浦（現在の石巻市）を船出しました。ノベスパニヤ（今のメキシコ）との通商交易の道を開けという、主君伊達政宗の命によるものでした。しかし、任務は失敗に終わり、常長は日本にむなしく戻ってきました。慶長遣欧使節団を率いたこの支倉常長の人生を基にして、遠藤は長谷倉六右衛門という侍の一生を物語る『侍』を書きました。

侍は太平洋を横断してメキシコの総督に会い、仙台藩との交易を頼みましたが、総督はそれはスペインの王様が決めるべきだと言いました。侍は再び大西洋を渡りスペインに入りましたが、カトリック国の王様である教皇の許可

が要るということがわかり、今度はローマのバチカンまで行くこととなります。そこで侍は、自分の任務を達成するならという覚悟で、「形だけ」のキリスト教の洗礼まで受けます。

しかし侍の願いは受け入れられず、彼は再び長い長い旅をして、ようやく日本に帰ることができました。故郷を離れてから七年もの年月が流れたあとでした。しかも、戻ってきた日本はキリシタン禁止の時代に一転して、侍は「邪宗門」の洗礼を受けたことが問題視され、評定所への出頭を命じられます。そして、侍は処刑を待つ身になります。

侍が日本を離れたのが不思議な運命によるものであったように、また不思議なことに、そのときようやく侍は、自分が「形だけ」で受け入れたキリストの姿が目に入るようになります。そして、自分とは何の関係もないはず

だったそのキリストについて、今は、なぜか隔たりを感じなくなり、さらにはそのキリストが自分に似ているような気さえたのであります。侍は地上の王様に会うための旅をつづけました。しかし、その旅で彼が実際に追いかけていたのは、地上の王様ではなく、天上の王様だったのでした。

こうした神秘について、遠藤は

『侍』の中である司祭の口を借りて、つぎのように告白します。「洗礼という秘蹟は人間の意志を超えて神の恩寵を与える……彼ら（日本人信徒）の受洗に万が一、そのような不純な動機があったとしても、主は決してその者たちをその日から問題にされない筈はない。彼らがその時、主を役立てたとしても、主は彼らを決して見放されはし

ない」。

人は自分も知らないうちに、神の痕跡を追跡するものである。しかし、人がいつか、ふと後ろを振り向いたとき、そこに、人は自分を必死になつて追いかけておられる神を見つけることになる。「探偵小説家」遠藤周作のメッセージはそこにあるのではないかと、私は考えております。



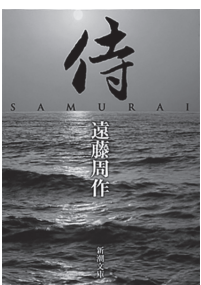
『おバカさん』

遠藤周作：著
KADOKAWA
2019年改版
文庫判 400頁
836円



『沈黙』

遠藤周作：著
新潮社
1981年
文庫判 312頁
693円



『侍』

遠藤周作：著
新潮社
1986年
文庫判 422頁
990円

まことの神と主イエスとをもっと
親しくなるため、シンドクを！

〈評者〉三浦陽子



説教黙想アレテニア叢書

三要件 深読

十戒・主の祈り

小泉 健、楠原博行、高橋 誠、

荒瀬牧彦、安井 聖、須田 拓

ほか著



新型コロナウイルス感染症が流行し終息とはいかず、共存の日々に突入した。この三年余り、教会は感染症との闘いで多くのことを問われた。礼拝、祈祷会、また愛餐会、その他の集いの持ち方。そこで問われたことは「教会」そのものであると言える。教会にとって当たり前だった姿にゆさぶりがかけられた。十字架に死に、葬られ、よみがえり、今も生きておられる主イエスの召しによる神の子たちが、親しく集まるのが難しくなったからである。

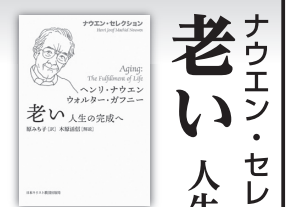
何が神を愛し、隣人を愛することになるのか、祈りつつ多くの選択をしてきた。しかしそれでも今日、多くの教会がこの数年で失われたことを課題として負っている。教会が、一人ひとりのキリスト者が力づけられる必要がある。

そのような渦中で、この「三要件 深読」シリーズは出版された。それはまるで、教会の回復のために「三要件」

も想定した加筆がなされている。この本を一読して思うことは、誰でも本書によって「三要件」と親しくなれるだろうということである。

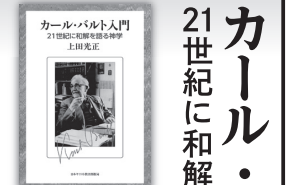
本書の「はじめに」を書いた小泉健先生が、こう始める。「三要件を読みましょう」。また繰り返し「三要件を読みましょう。暗記してしましましょう」。本書はとにかく「三要件」を読むこと、それも「深読（しんどく）」することを勧める。深く読むことを求めている。黙想をあえて言い換えて、「深読」と言う。

深読みならば、一般的には必要以上に読み取るという意味があり、あまり良い意味ではない。それを「しんどく」とふりがなをふり、良い意味で深く読むことを提唱する。それはただ、知的に深くということよりは、信仰的に、霊



ナウエン・セレクション
古い 人生の完成へ
ヘンリ・ナウエン
ウォルター・ガフニ

20世紀を代表する霊的指導者ナウエンが、老いゆくことを聖書のメッセージの光に照らしつつ思い巡らす。老いは、隠したり否定したりすべきことではなく、人生の完成に向かう成長の道のりであるとナウエンは語る。四六判並製・144頁・定価1980円



カール・バルト入門
21世紀に和解を語る神学
上田光正

危機神学として日本の教会に多大な影響を与えたバルト神学。分断と対立が深刻化する現代、著者は「和解の神学」としてのバルトの価値に目をとめ、今日的な意義を指し示す。A5判並製・176頁・定価2640円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格10%税込》
<https://bp-ucci.jp>

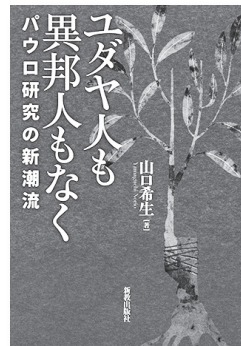
的に深くということであろう。霊的に深くとは、これらを読みつつ、まことの神様と主イエス・キリストと、もっと親しくなるということであろう。

この黙想を読めば、歴史的には古い「三要件」の各項目が、新しい響きを立てて兄弟姉妹の日常生活の中でも生かされていくだろう。もちろん、教会の礼拝で語られ聴かれれば、力づけられる教会も起こされるに違いない。

教会の回復のために親しくひびきを突き合わせて「三要件」に親しもう。本書は、教会員の信仰を強め、新しく主と教会を愛する愛に生きることへ導く格好の手引きである。(みうら・ようこ 日本同盟基督教団安中聖書教会牧師)
(A5判・二〇八頁・定価二六四〇円・日本キリスト教団出版局)

ＮＰＰの全貌を高解像で捉え、福音理解を刷新する

〈評者〉 関野祐二



ユダヤ人も
異邦人もなく
パウロ研究の新潮流
山口希生著



Ｎ・Ｔ・ライトの名とともに、「パウロへの新しい視点（ニュー・パースペクティブ）」(New Perspective on Paul, 以下NPPと略)との呼称を耳にするようになったのは、日本語を使う大多数のキリスト者にとって二〇一〇年台に入ってからであろう。その潮流が、E・P・サンダース『パウロとパレスチナのユダヤ教』（一九七七年、邦訳刊行予定）に端を発するのは周知の事実だが、邦訳書はNPPの提唱者J・D・G・ダンの『新約学の新しい視点』（すく書房、一九八六年）、前述サンダースの『パウロ』（教文館、一九九四年）など、いずれも簡潔な解説書で、十分な理解の進まないまま、いわゆる「N・T・ライトブーム」に突入し、コーネリス・P・ベネマ『パウロ研究の新しい視点』再考』（いのちのことば社、二〇一八年）など、賛否両論が喧しく発せられて来た感がある。九百頁超のダ

（E・P・サンダース／J・D・G・ダン／リチャード・ヘイズ／N・T・ライト）「ポストNPPの旗手たち」（ダグラス・キャンベル／ジョン・バークレー）の三部から成る。最終章では、NPPと東方正教会の救済理解の親和性、信仰義認と行いの関係性に続き、本書のタイトルとも関連する「ユダヤ人も異邦人もない教会」とのパウロの普遍主義ビジョンと近年のグローバリズムが比較される。

山口希生氏は「信徒の方にも読んでいただけよう平易に書きました」と語っていた。論旨明快かつ極めてよく整理された構成はその通りなのだが、では「平易な入門書」と言えばそれは違う。稚拙なたとえで恐縮だが、超広角レンズで撮影された高解像三次元衛星写真とまったく同じか。NPPの潮流全体をくまなく見渡せるとともに、拡大

ン『使徒パウロの神学』（教文館、二〇一九年）はNPPの決定版とも称されるが、これに取り組む前段階として、NPPに立つ学者たちの研究全体を網羅し、その進展と核心を解き明かす、日本人学者の著作を切望したのは評者だけではなからう。N・T・ライトのもとで博士論文を執筆し、ライトの名著『新約聖書と神の民 上下』（新教出版社、二〇一五年、一八年）を邦訳した山口希生氏を置いて、この任に相応しい器はいない。

本書は、従来のパウロ理解に対するNPPの問題提起のポイントが第二神殿時代のユダヤ教理解にある、との序論から始まる。続く本論はNPPの潮流を構成する学者たちの主張の解説で、「NPPの先駆者たち」（F・C・バウル／アルベルト・シュヴァイツァー／W・D・デイヴィス／エルンスト・ケーゼマン）「NPPを代表する研究者たち」

すればいくらかでも細かな部分が、対象の厚みや深さまで見えてくるのだ。西方の伝統的神学と宗教改革の遺産をどこか究極不変と無意識に考えて来た諸氏には、福音理解と救済論が根底から問われるゆえ、胸が高鳴ってなかなか読み進められないに違いない。ネタバレにならぬよう詳細は割愛するが、この「ドキドキ感」をぜひご自身で味わっていただきたいと思う。

巻末に聖書箇所索引と文献表があるのはありがたい。加えて著者による、NPPの成果に基づいた「新しい福音」が最終ページに掲載されていたら、と願うのは欲張りだろうか。

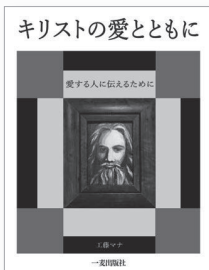
（せきの・ゆうじ|| 聖契神学校校長
（四六判・二四〇頁・定価二四五〇円・新教出版社



キリストの愛とともに

愛する人に伝えるために

工藤 マナ
KUDO Manna



キリストの顔に出会う？

教派をこえて眺めて見ると
キリストの体の全体像と
それぞれの役割が見えてくる
愛する人に「救い主キリスト」
を伝えたい時に

A5判変型
定価 1,980 [本体 1,800 + 税] 円
ISBN978-4-86325-150-2



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<https://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

大いなる「しかし」の
書としての第一ペトロ書

〈評者〉 吉田 新



第一ペトロ書を読む

積義と説教
石田 学著



「積義とは何かを知りたいければ、まず、街の通りを歩いてみなさい。その通りのパン屋に行つて、店で売られているパン一つ一つをよくご覧なさい。その後、街全体を見渡せる丘に登り、そのパンをもう一度、見てみなさい。」

ドイツの大学に留学していた時、聖書積義を講義していた教員にこのように言われた。積義家は原語の一つ一つの語釈のみに拘泥してはいけない。文脈、書物の意図、筆者や読者が置かれていた状況等々、細部に目を凝らしつつ、全体を俯瞰する視点も併せ持つ必要がある。本書を読み、このことを著者を通してもう一度教えられたように思えてならない。

福音書やパウロ書簡と比べ第一ペトロ書は読まれる頻度がそれほど多くはないだろう。しかし、迫害という現実を目前にし、初代キリスト教徒らが自らに降りかかる苦難を

いかに捉え、それをどのように乗り越えていくべきかを教える貴重な文書の一つである。疫病や戦争など、様々な危機的状況と向かい合っている私たちにとっても、示唆に富んだ手紙である。

本書には石川学氏が二〇一九年十二月から二〇二〇年四月まで主日礼拝で語られた説教と、その準備のための積義が収められている。一節ずつ原文から丁寧に読解した考察と、それを踏まえた説教テキストが併記されているのは有意義である。説教者が聖書テキストから何を読み取り、それをどのように分析し、み言葉の説き明かしへと生かしていくべきか、という道筋が明らかにされるからだ。本書の積義の部分は、礼拝前に持たれていた聖書の学びの時間で、参加者と分かち合っていたとのことである。「説教は説教者と会衆が共同で形作るものである」と本書のあとがきで

述べられており、説教者として著者の誠実さがこの言葉に表れている。

積義の部分では従来の見解とは異なり、独自の解釈を提示する部分もあり、とても興味深い。とりわけ、五章八―十一節に関する積義と説教では、著者の視点の広さと深さを感じさせられた。一〇節の冒頭部分には「しかし（原語ではデ）」が記されている。「これほど強力な一音はありません」と語る著者は、この一音に第一ペトロ書全体の使信を読み取り、キリスト者のあるべき生き方を説く。第一ペトロ書の送り手は、困難な現実を語ったすぐ後に、「しかし」と一語付すことにより、その先にある未来を指し示している。この大いなる「しかし」があるからこそ、キリスト者は襲いかかる試練に打ちのめされることなく前に進む

ことができる。「しかし」という言葉は、普通は読み落としそうな一語である。だが、ここから大いなる「しかし」の書である第一ペトロ書が、読者に語りかけるメッセージを著者は正確に読み取っている。まさに、通りの店の軒先に掲げられた品物を確かめつつ、その街全体を把握できる積義家としての著者の実力が遺憾なく発揮されている。

また、支配者に都合良く使われてきた歴史を持つ二章一七節では、原文にある「敬う」と「畏れる」という動詞の微妙な使い分けに注目する。人々を統治する王のような為政者が跋扈する時代の到来を感じさせる昨今、「畏れるのは神のみ」と宣言する第一ペトロ書の精説が一層求められるだろう。本書はその大切な助けとなる。

（よしだ・しん 東北学院大学文学部教授
四六判・二一〇頁・定価二二〇〇円・新教出版社）



新刊
聖書学論集54

日本聖書学研究所編
●A5判並製 182頁
定価3,300円(税込)

詩篇に同じものは
二つとない
—詩篇14篇と53篇—

山吉智久

「ヤハウエの謀」

杉江拓磨

聖書ヘブライ語の状態動詞
についての意味論的考察

佐藤 潤

不思議な羊飼いは?

—アモス書3章12節の解釈と
思想的背景—

長井隆児

ヘブル書10:11-13の
構文とその積義的意義

赤城 海

神も途上に・再考

大貫 隆

古代ユダヤ思想における
終末論と創造論

上村 静

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

「ことば」は誰のものか

〈評者〉市原信太郎



ことばの力
キリスト教史・神学・
スピリチュアリティ
関西学院大学キリスト教と
文化研究センター編



本書でも何度となく使われている「キリスト教はことばの宗教」という句は、ある種の決まり文句としてしばしば聞かれる。しかし、それが示す内容は実に文脈的、多義的であり、その意味は常に問われ続ける必要があるだろう。

本書の「まえがき」は以下のように言う。「本質的に『ことばの宗教』であるキリスト教において、『神のことば』『神に関わることば』はどのように理解されてきたのでしょうか。それらの言葉は、どのような文脈でどう語られたり記されたりしてきたのでしょうか。また、そのような言葉は……、どのような役割を果たし、どのような影響を与えてきたのでしょうか。」これらの問いに、キリスト教神学、歴史学、社会学、宗教学、民俗学などをもって、学際的に応答したプロジェクトの報告が本書である。

しかし、小生が本書を通読して感じたことは、ここに言われ、それがカトリックとプロテスタントを隔てる点であるとする伝統的な理解が、近代の聖書学や教父学の復興、そしてエキュメニカル運動と礼拝刷新運動の進展により、両者の一体性という新しい理解へと移り変わってきたという視点に基づき、近年の研究をいくつか紹介している。興味深いのは、そこからさらにテゼ共同体の実践へと論を進めていくことである。

打樋氏は、この共同体に見られる言葉のサクラメント性に注目する。創設者ブラザー・ロジエは、プロテスタントの改革派の出身であるが、プロテスタント的な「言葉の偏重」には警戒的であり、行き過ぎた聖書主義や堅苦しい説教が支配的となることからは距離をとったことを打樋氏は重視する。そして、ロジエは言葉とサクラメントの不可分

う「How」や「What」を超えるさらなる問いを、本書は投げかけているということである。それは「Who」、すなわち、誰が、誰に向かって、語っている「ことば」なのか、という問いである。この、ある種メタな視点からの問いが補助線的に全体を貫いていることにより、バラエティに富むアプローチゆえに、一見するとバラバラにすら見えるそれぞれの論文が合わさって、一本の「物語」を紡いでいるように思われる。

このような幅広い視点・論点に基づく本書の全体を、限られた字数内で網羅的に伝えることはできない。ここでは、「まえがき」の執筆者でもある打樋啓史氏の「言葉とサクラメント」を紹介することで、本書の「物語」を多少なりとも共有できればと思う。

打樋は、「言葉」と「サクラメント」とが対立的に扱性を大切にし、この両者への信頼を通して神の深い愛の中に身を置くことができる、と確信していたと言う。そうして、テゼにとつて、「神の言葉」はサクラメントと不可分の、人間存在の深みへの神の語りかけそのもの、「御言」にはかならず、それは論理的な言葉ではなく、何よりも典礼の言葉として表現されてきた、と結論づける。このような打樋氏の論じ方自体が、筆者の言う本書の大きな問い、「誰が、誰に語ることばか」への一つの応答になっている。本書は「キリスト教はことばの宗教」という聞き慣れた言葉を、この根源的な問いへの応答として、改めて語っていると思う。

(いちはら・しんたろう) 日本聖公会中部教区司祭
(四六判・一六六頁・定価一七六〇円・キリスト新聞社)

ヨベルの月刊 既刊案内

ドイツ敬虔主義著作集の刊行に際して
 喜多村得也 訳
 金子晴男 監訳
 ドイツでは啓蒙主義の思想家ばかりが偏重され、それらと対決する敬虔主義の思想が全く無視されてきた。敬虔主義の主な作品を翻訳し、最終巻はその思想特質の研究と現代の意義を全くとく無視されてきた。敬虔主義の主な作品を翻訳し、最終巻はその思想特質の研究と現代の意義を全くとく無視されてきた。敬虔主義の主な作品を翻訳し、最終巻はその思想特質の研究と現代の意義を全くとく無視されてきた。

聖なる哲学
 エーティンガー 著
 喜多村得也 訳
 第一回配本 未再配訳
 キリスト教思想の精選集
 信仰の根底は、神の言葉としての聖書！ 十八世紀を席巻した理性万能の諸哲学や観念論に敢然と立ち向かった生命の「御言葉」に基づく哲学。

岩本遠億
 ルカの福音書説教集1
 神はあなたの真の願いに答える
 絶対発売中！
 「目から鱗」を超える感動！
 イエスの時代に連れて行かれる感じ！
 すべてのいのちの源である神。私たちが友と呼んでくださった神の子イエスへの想念。キリストの平和教会で語られている「ルカの福音書」説教第一弾！
 新書判・二一六頁・一三二〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
 〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
 出版の手引き / 呈 (税込)

今、教会が問われている

〈評者〉**家山華子**



コロナ後の教会の可能性

危機下で問い直す教会・礼拝・宣教

荒瀬牧彦 編



「今、教会が問われている」。この問いを抱えつつ目の前の課題に向き合ってきた。五月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが五類に引き下げられ、教会でもこれまでできなかった活動を徐々に再開しつつある。それと同時に「今、教会が問われている」という感覚が薄れ、いつの間にか通り過ぎようとしているのではないだろうか。本書は、二〇二〇年秋から日本クリスチャン・アカデミーの共同研究として教派や年代の異なる七名のメンバーによって対話が重ねられてきた一つの成果である。新型コロナウイルスの様々なフェーズを経験しながら「この時」を刻むべく互いに刺激し合って生み出された言葉が、読者に刺激を与える。

まず、東中野教会牧師の浦上充氏は、「オンラインを活用した礼拝の様々な方法を整理した上で、ともすると配信する側の自己満足に陥りがちなところを、受け取る側の視点

に立ち「私はこの礼拝に参加しているという感覚」が大切であると指摘し、オンラインを前向きに活用した実践の可能性について論じている。石橋教会牧師の仲程愛美氏は、コロナ禍で変化せざるを得なかった教会の戸惑いを含め、そのままに綴る。そして教会のオンライン化は、教会の敷居を低くすることになったかはまだ分からないしつつ、教会が福音を届けるために教会のカタチが変化していることを前向きに捉えている。高槻日吉台教会牧師の吉岡恵生氏は、「オンラインを用いることは、これまで「礼拝の外に置き去りにしてきた」病床にある人や仕事で礼拝に集えない人などへの牧会的配慮の問題であることを改めて認識させる。また、周到に準備されたオンライン聖餐式の実践を紹介し、オンライン洗礼式の可能性をも指摘する。カトリック名古屋教区司祭の片岡義博氏は、「オンライン教会学校」の取

り組みを紹介し、地方の教会や小規模教会とも共有できる可能性を示唆する。また、カトリック教会の「霊的聖体拝領」の考え方や「初聖体クラス」という信仰教育プログラムについても紹介している。マイノリティ宣教センター主事の渡邊さゆり氏は、「コロナ後」という言葉を発することの慎重さを求め、在留外国人への差別やヘイトの増大、女性への暴力がより過酷になっていると指摘。今痛みを抱えている人々から教会は学ぶべきであると訴える。そして今こそイエスの宣教実践へ引き戻される必要があると提言する。

大規模なアンケート調査の結果、特に自由記述からは、一人一人に生じた変化があるのまに見えてくる。これをもとに同志社大学の越川弘英氏は「キリスト教というもの、

福音というものを、あらためてもう一度見つめ直し、自らのあり方と立ち位置、そして進むべき方向を定め直す」とことを提言している。関西学院大学の中道基夫氏は「オンライン礼拝で問題にすべきなのは、対面の礼拝のリアリティではなく、神の国のリアリティである」として、他者と共にいることを実感できる礼拝を目指さなければならぬと提言する。最後に、編者の荒瀬牧彦氏は、各現場で討論する機会をもつこと、それを反映した今後のアクション・プランを立て、記録することの提案をする。教会を問い直し、変化していくきっかけとして、本書が大いに活用されることを願っている。

(いえやま・はなこ) 日本キリスト教団箕面教会
A5判・一四八頁・定価一六五〇円・キリスト新聞社

ヨベルの月刊・既刊案内

原始キリスト教の大貫隆「贖罪信仰」の起源と変容

贖罪信仰そのものが、いまだ議論と再検証の卓上に置かれていた。イエスは人類の罪を贖うため身代わりとなって神に裁かれ十字架で死なれた。この「贖罪」を「キリスト教信仰の要諦」とする考えは、何処を起源とし、いかなるプロセスを経て変容・発展・定着してきたか。贖罪信仰の核心に迫り、キリスト教の再構築を静かに促す。四六判上製・二九二頁・二二〇〇円



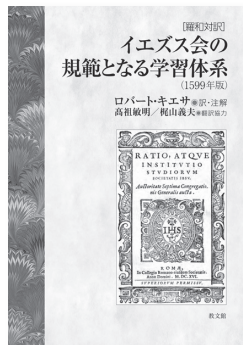
ダハネ福音書解釈の根本問題

イエスの全時性と共同体に吹き渡っていた聖霊の息吹への気づき。この視座から捉え直して見えてくる新たな「地平の融合」とは。四六判上製・一九八〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

文化の枠を超えた 全人的な教育への指針

〈評者〉 川村信三



〔羅和対訳〕
イエズス会の規範となる
学習体系
(二五九九年版)
ロバート・キエサザク 注訳
高祖敏明 梶山義夫 翻訳協力



「もしもこの地上のどこかに学識ある人がいるとするなら、この学校にいるはずだ」(久保田静訳)。これは近代哲学の祖といわれるルネ・デカルトが青年時代をすごしたイエズス会学校について語った言葉である。その名はラ・フレシユ学院。一六〇四年にさかのぼるフランスの名門校である。イエズス会学校としては他にルイ・ル・グラン学院と改称されたクレルモン学院(一五六三年創設)が有名で、卒業生にはヴォルテール、モリエール、ユーゴー、サルトルらが名をつらねている。一七世紀にこれらの学校の「学生手帳」は宮廷の礼儀作法書として採用されていたという話もある。バロック演劇史ではかならず「イエズス会(学校)演劇」が数ページを割かれるほどの盛況であった。

一五四〇年、教皇パウルス三世により認可されたイエズス会は、大航海時代の世界宣教に大きな足跡をのこした。福岡など)がそのイエズス会学校の系譜に連なる。今回初の邦訳刊行となった『イエズス会の規範となる学習体系』(一五九九年版)、いわゆる『イエズス会学事規定』は、国際的で多岐にわたる文化の枠を越えて、イエズス会の目指す共通の教育方針を簡潔に示したものであり、イエズス会版「学習指導要領」とでもいえるものである。ただ教科内容が羅列されているのではない。青少年の個々の発達に合わせた、しかも生徒の共同体の在り方にまでおよぶ全人的教育への指針となっている。さらに、近代教育ではあたりまえとなったドリル・反復、昇級テスト、チュートリアルなどの方法が具体的に示されている。その

目標は、単に知識を獲得するというよりは、「判断力」のすぐれた人を育てることであった。新しい時代に突入り、

とで知られるが、そのなかでも「学校教育」において大きな成功を獲得した。フランスの例ばかりでなく、ヨーロッパの中等教育分野でイエズス会の果たした役割はきわめて重要なもので、中世のスコラ学(パリ大学を中心とする伝統)とルネサンス・人文主義時代の新しい学問方法論と教育方法をハイブリッド的にとりいれて、近代学校の先駆の一つとなった。その教育理念は、一六世紀末に、わずかではあるが、アレクサンドロ・ヴァリニャーノによって日本にもたらされた。

一五四七年、はじめての学校をシチリアのメッシーナで創設して以来、五〇〇年。現在、七三カ国一六一一の教育機関がイエズス会の運営になり、これまで約一五八万人以上の卒業生を世に送りだした。わが国では上智大学をはじめとする教育機関(栄光学園、六甲学院、広島学院、上智

より学徳すぐれた人材をもとめていた社会に、一つの方法論的解決をあたえたことはまちがいない。

訳者であるキエサザク神父は、長く日本のイエズス会学校で教鞭をとられた教育のエキスパートである。母国語の英語ばかりでなく、宣教師として長年学んだ日本語および自ら体験されたイエズス会学校教育の成果であるラテン語にも通じた方である。まさに、本テキストを日本語に訳するための最良の人材である。ラテン語の規則集からうける固い印象とはちがひ、美しくこなれた日本語の言い回しから、イエズス会とは何かを知り、そしてその背景に、青少年教育への強い意欲を読み取ることができる。

(かわむら・しんぞう 上智大学教授
A5判・三一六頁・定価四九五〇円・教文館)

現代社会における「ことばの力」の回復を目指して

ことばの力

キリスト教史・神学・スピリチュアリティ

関西学院大学キリスト教と文化研究センター【編】



キリスト教において、「神のことば」「神に関わることば」はどのように理解され、どのような文脈でどう語られたのか。礼拝、文書、コミュニケーションにおいて、どのような役割を果たしてきたのか。7人の研究者が現代におけるキリスト教と「ことばをめぐる諸問題」に、歴史、組織・実践神学、スピリチュアリティの視点から立ち向かう。

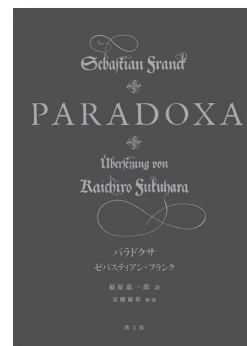
四六判・並製・166頁・定価1,760円(税込)

キリスト新聞社 since 1946

169-0051 東京都新宿区新小川町9-1 4F
03-5579-2432 support@kirishin.com

宗教改革期の
第一級資料、初の全訳

〔評者〕金子晴勇



パラドクサ
ゼバステイアン・フランク著
福原嘉一郎訳
安酸敏眞解説



ゼバステイアン・フランク (Sebastian Franck, 1499-1543) の名著『パラドクサ』は、宗教改革史の分離派によって説かれた第一級の原資料であって、このような重要な文献がドイツ語の専門家によって翻訳されたことは実に快挙としか言いようがない。

フランクは一五二五年にルター派に改宗し、ニュールンベルクの牧師となったが、神秘主義的な霊性主義者（再洗礼派のデンクヤルターを批判するようになったシュベンクフェルト）と親しく交わり、その影響を受けて、「神の御霊による内的な照明」で充分であるから、外的な教会を決して設立すべきではないと説き、ルター派、ツヴィングリ派、再洗礼派に対抗する第四の立場を「御霊と信仰の一致における見えぬ、霊的な教会」として説き、大胆にも一切の教会制度と教義に反対した。

彼は人間の魂のなかに神の言葉を聞く能力があつて、それを「魂の根底」(Seelengrund) という霊性の機能に見いだし、この神秘的なエレメントこそ人間の尊厳の徴であると説いた。この概念はドイツ神秘主義から発して、宗教経験の真の源泉とみなされていた。このような霊性に立つ思想家たちはドイツ人によってルネサンス時代に普及した「万有在神論」であるとみなされ、近代思想の源泉であると解釈された。

彼がルターの「ハイデルベルク討論」に参加したかどうかは、不明瞭であるが、当時彼がハイデルベルクに住んでおり、その友人たちがこの討論に参加したことは記録に残っている。それゆえルターの影響は見逃せない。それは本書の主題「パラドクサ」と直結する。

た。ところがエラスムスはそれを批判し、「逆説」を神学討論に用いるべきではない、と警告した。なぜなら「逆説」(パラドクサ)は「一般的な意見に逆らう」が原義であつて、総じて討論に混乱を招くからである。ところが逆説はルターの思想を弁証法として展開させる契機となつた。(例えば彼が挙げている事例を参照すると、「律法」が元来は良いものであるのに、これを実行しようとする者たちを裁く悪いものに変化する。良いものが悪いものであるとすると、これは一般の人々には理解されない「逆説」である。それにもかかわらずこの逆説の否定を媒介して信仰に到達する「弁証法」の論理が形成された。)

ではこのような逆説をフランクはどのように考えたのか。彼は「パラドクサ」を「奇弁辞解」とみなし、神が隠した

不可解な事態を解き明かす。こうして一般の人たちには不可解で、把握できない言辞が二八〇の命題によって提示され、その真意が豊かな学識を駆使して説き明かされる。しかもアウグステイヌスが『霊と文字』で提示した方法を自己流に解釈し、そこから彼の霊性思想を大胆に展開する。まことに恐るべき論敵がその豊かな学識でもってルターの宗教改革に登場する。真に興味深い歴史の一コマである。

(かねこ・はるお 聖学院大学名誉教授
A5判・三九六頁・定価三九六〇円・教文館)

新型コロナのパンデミックによって
見いだされた、教会の新たな境地

日本クリスチャン・
アカデミー共同研究
コロナ後の
教会の可能性

危機下で問い直す
教会・礼拝・宣教

荒瀬牧彦 [編]

浦上 充 渡邊さゆり
仲程愛美 越川弘英
吉岡恵生 中道基夫
片岡義博 [著]



コロナ禍で教会に突きつけられた神学的な課題とは何か。それを検証しつつ、パンデミック収束後の諸教会に向けて、「今までのようにはいかない」現実を見据えて、新たな可能性の具体案を提示する。日本クリスチャン・アカデミーとキリスト新聞社による共同大規模アンケートの結果も収録。

A5判・並製・138頁、定価1,650円(税込)

キリスト新聞社 since 1946
169-0051 東京都新宿区新小川町9-1 4F
03-5579-2432 support@kirishin.com

現代人に向けた新しい伝記

〈評者〉 山北宣久



アシジのフランシスコの
生涯
A・トムソン著
持田鋼一郎訳



本書は歴史学者でありドミニコ会の神父であるA・トムソンの著作を、カトリック信徒で伝記作家・翻訳家の持田鋼一郎氏が丁寧な解説を加えて翻訳出版されたものである。訳者の文献案内によると日本人による主な著作で九冊、外国人著作・小説の翻訳書が一五冊、その他膨大な資料を加えると数え切れぬ位フランシスコ関連本がある中、今回の出版の意義は何処にあるのだろうか。

それは一〇年前に選出されたローマ教皇ベルゴリオ枢機卿が初めてフランシスコを教皇名とし、「貧しさの人、平和の人」、「被造物を愛し、守った人」フランシスコこそ悩める現代に相応しいメッセージをもたらすことを就任挨拶で訴えたことの延長線上にある。

A・トムソンは多くの聖者伝説の背後にあるフランシスコの実像と人間性を抉り出し、「すべての人の僕」になる

その聖書の言葉を説く説教は「つねに彼自身の生活に発していた」（九一頁）。「フランシスコはいつも注意深く念入りに練り上げた言葉よりも、行動と仕草の人間」であり、「場合によっては踊ったり歌ったりさえして、群衆に話しかける熱っぽさで知られていた」（九二―九三頁）。

一方、アシジでの大きな出会いたるクララとの歩み（一〇〇頁）や、有名な「小鳥への説教」を中心とした動物への愛は創造者たる神を褒めたたえる行為たること（一一四頁、二七七頁）、さらには「聖痕」がキリストとの完全な一体化を目指す人生の頂点であったこと（二三四頁）、眼の痛みは主の受難を共有する機会であったこと（二五四頁）なども詳述されている。

「生涯を通じて、フランシスコは祈り、禁欲、孤独によって自分の魂を浄化するために遠隔地や隠遁の庵に身を引いた」（二二七頁）が晩年は激しい病苦に苛まされ、本格的な隠退を余儀なくされるが、それとても霊性深化の時として身を以っての証し、教導に結実させていく。そして「ようこそおいでくださいました、わたしの姉妹である死よ」（「兄弟なる太陽の賛歌」と眩いて帰天していく）。

出家から始まり家族、友人、主にある兄弟たちとの関係等の中で主への従順の軌跡が一貫して伝えられる。鬱病に

真の自由と従順が現代に最も必要であり、神の愛が人間の魂を造り変えることにあるとした。

四五年にわたるフランシスコの生涯を八つのエポックに分けて語る本書は、フランシスコの「複雑で個人的な葛藤」を描きつつ躍動感に満ちている。

回心の核心はハンセン病の療養所内であったことを告げるが（四八頁）、貧者、病者救済よりも「聖体の秘跡の問題に、はるかに熱心に関心を持ち続け」（五一頁）、「ミサにふさわしく参加することは『すべてを超えて神を愛すること』を意味することに他ならない」とする（一七七頁）。「路上に居る」存在として、イエスの後継者たることを理解しつつも（七〇頁）「兄弟会」を組織していくが、その会則は「無数に引用した聖書の言葉が重要な意味を持つてい」た（一八七頁）。

苦しむ兄弟との共労（九五頁）も含め、現代人に向けた新しい伝記として本書は大きな価値を持つ。その現代的な意味について訳者が「甦るアシジの聖フランシスコ」と題して小論文を記しているのが実に印象的にして紙価を高める。聖フランシスコの著作集、伝記資料集をキリスト教古典叢書として出版している教文館が本書を世に送り出してくれたことを感謝する。何よりも誠実な翻訳を全うされた持田鋼一郎氏に敬意を表するや切。

枯渇の度を増す世相にあつて、豊かな霊性を注入し、人間性を取り戻させるフランシスコの伝記の決定版を手に取りべし。

（やまきた・のぶひさ）日本基督教団教師・前出版局理事長

（四六判・三一四頁・定価三六三〇円・教文館）

実に行き届いた 配慮に満ちた入門書！

〈評者〉**安井 聖**



キリスト教古代の思想家たち
思想家たち
教父思想入門
関川泰寛著



副題を「教父思想入門」とする本書は、教父たちの思想を学ぶ楽しさ・喜びの中へ、馴染みのない読者を導き入れようと心を尽くしている、とても良い入門書である。目の前にいる読者に語りかけるような言葉遣いで、教父たちの置かれていた複雑な状況と、その中で紡ぎ出された彼らの言葉の持つ意義とを、わかりやすく丁寧に説き明かしている。教父研究、特にアタナシオス研究の日本における第一人者として数々の実績を積み重ねてきた著者は、同時にプロテスタント教会の牧師として長く働いてきた。教父思想に込められている神の恵みを、噛んで含めるようにして語り聴かせようとする牧師らしい姿が、本書全体に投影されている。

評者は神学校や大学で古代の教父思想を紹介する講義を行なっているが、その講義の中で初学の受講者たちに伝える

返し述べているように、教父たちが言う神化とは、人間が神のようになる、神と等しくなる、という意味ではなくて、神の御子の不死・不朽の本質に人間が参与することによって、アダムの墮落以来失われた原初の不死性・不朽性が回復されることを意味する。著者は、アタナシオスとプロテイノス（新プラトン主義の開祖）の神化論を比較して論じている。プラトン主義的二元論を前提としたプロテイノスの神化理解は、結果的に悪からの逃避に向かう。これに対して二元論を徹底して退けたアタナシオスの神化理解では、罪と悪との対決を回避しない。人間は人間に留まり続けながら、同時に受肉した御子キリストの神性と一つにされることによって、不死・不朽を神からいただく。この神化の恵みを支えとするからこそ、人間は罪と悪と戦う歩みへと至る。そのように理解された神化は、「礼拝とサクラメントにおいて、可視的な共同体、教会の現実になる」（165頁）と著者は語り、神化論と教会論との関係を示唆しているが、評者はこれに大いに刺激を受けた。神化論と教会論との関係について、アタナシオスをはじめ教父たちがどのように考えていたかを、評者も考察してみたいと思わされた。

「教父を学んでいて面白いなど感じる時は、たいてい、

たいと考えている内容のほとんどが、本書には網羅されている。受講者たちに、ぜひ本書を手にとって読むように勧めたいと思った。また「あとがきと参考文献」の箇所では、本書を読了後、さらに教父思想を学び進めたいと願う読者のために、膨大な教父の著作や専門書を読み解く手がかりとなる重要な参考文献を、それぞれの文献に関する簡単な解説と共に紹介している。教父思想の世界の入り口に立った者たちを、さらにその中へと招き入れようとする、実に行き届いた配慮をしている。

他方で本書は、教父思想に関するかなり踏み込んだ内容をも取り上げている。その中でも特に神化論に関する考察（第11、12章）は、評者にとって読みごたえがあり、新しい気づきを得ることができた。「神化」という言葉は、日本の多くのキリスト者にとって馴染みがない。著者が繰り

教父たちが福音の真理を自分自身の思想や文化の中で理解し、解釈し、土着化させていった試行錯誤の経過が分かる時です」（7頁）。福音の伝道者である著者にとって、自分と同じ伝道者の先達実践の中で紡ぎ出した教会を導く知恵の言葉、それが教父思想なのである。

（やすい・きよし）日本ホーリーネス教団西落合教会牧師、東京聖書学院准教授

（新書判・三〇四頁・二六五〇円・ヨベル）

村椿嘉信著 *絶賛発売中

荒れ地に咲く花

生きることを愛すること

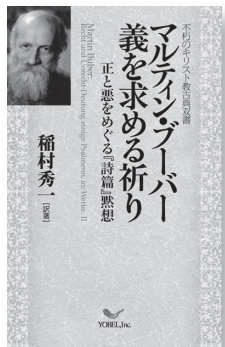
四六判・160頁
定価1,320円
ISBN978-4-909871-43-5

混沌とした時代にあつて、社会のさまざまな問題と関わりながら、どのように生きるべきなのか。イエスは「愛すること」が決定的に重要だと指摘した。

ヨベル YOBEL Inc.
お問い合わせ: info@yobel.co.jp
情報: http://www.yobel.co.jp

現代を予見している ブーバーの読み解き！

〈評者〉北 博



〈不朽のキリスト教古典双書〉
義を求めぬ祈り
正と悪をめぐる「詩篇」黙想
マルティン・ブーバー著
稲村秀一訳著



本書はマルティン・ブーバー著作集第2巻所収の5編の詩編の講解から成る、原本では40頁ほどの小論文の翻訳である。本文の後に、訳者による注と解説、そして簡単な後書きが付されている。それに続いて、分量ではこれに匹敵する「現代の精神状況における神の蝕」と題する訳者による「付録論考」が添えられており、実質的に二部構造になっている。

扱われる詩編は、順に5編、12編、14編、82編、73編、1編である。ブーバーが「序」において述べているように、この配列には意味があり、詩編の作者はそれぞれ異なるにもかかわらず、「これらの詩は相互に、個々人の道の諸段階のように補充し合う」ことになる。訳者が最初に断っている通り、これは内容からすれば詩編講解と言うよりはむしろ「黙想」であり、今回の邦訳の出版に当たってこのよ

関心が集中しがちであり、加えて評者には詩編の多くが、祈りであると言っても自己中心的な、時には暴力的でさえある願望の表明にしか見えないことがあったが、ブーバーは詩編を極限状況での人間と神との対話の流れとして読み解いていることである。最近詩編を敬遠しがちであった評者にとっては、なるほど詩編とはこのように読むものかという目から鱗であった。

ブーバーの文章は、必ずしも読み易くはない。そこで訳者は、本文中に括弧で補訳ないし訳注を入れるという工夫をしている。このやり方だと、確かに読み易い。もつとも、読者は時々凡例で括弧の種類を確認した方がいいだろう。巻末の注も、訳注と明記した方がよかった。原文ではブーバーによる注は一つだけであり、それは訳注の中で言及さ

うな表題にしたことは適切な判断であろう。白状すると評者がこの論文を読むのは今回が初めてであるが、この時期にこれに出会ったことは評者にとっては神の恵みと言う他なかつた。それは、ロシアのウクライナ侵攻以来、核戦争と第三次世界大戦の恐怖が現実味を帯びたものとなり、毎朝目が覚めるとまずニュースでどちらもまだ起きていないことを確かめる癖がついてしまった評者にとって、どんなに困難であっても何が正しく何が正しくないのかを見分け、善を選び悪を斥けようとするこの大切さを改めて痛感したからである。戦争や権力の正当化のために宗教が使われる今日、まるでこの論文は、現代を予見しているかのようである。もう一つ、評者にとってありがたかったのは、最近詩編の注解書が続々出版され、新しく魅力的な詩編解釈方法が次々に現れたが、反面それはどうしても解釈技術に

れている。なお、裏技の類ではあるが、それでもやはりブーバーは読みづらいと言う向きには、先に訳者解説を読むむという奥の手もあるかも知れない。逆に訳者は、訳しにくい語には訳語にドイツ語を併記する方法を取っているが、これはブーバーに慣れ親しんだ読者にはありがたい。ブーバーはある種の語（例えば *Gegenwart* とその派生語）を通常とは違う特別な意味で用いることがよくあるからである。後半の「付録論考」は、ブーバーの哲学著作である「神の蝕」を推進力に、彼の思想の全体像を読み解いていこうとする意欲的な論文であり、感じるものが多々あった。版を改める際には、巻末に略号の出典を付けるひと手間をお願いできればありがたいです。

（きた・ひろし 元東北学院大学教授
〈新書判・二四八頁・一六五〇円・ヨベル〉

信仰の中核である三要文を じっくり味わうシリーズ

説教黙想アレテア叢書
さんようもん しんどうく
三要文 深読
十戒・主の祈り
使徒信条



【執筆陣】朝岡 勝／荒瀬 牧彦／楠原博行／小泉 健
／須田 拓／高橋 誠／服部 修
／平野克己／広田叔弘
／本城仰太／宮崎 薫／安 井 聖
／吉田 隆／吉村和雄

教会の信仰の大黒柱となる使徒信条・十戒・主の祈り。この三要素をじっくり味わい、深く読むシリーズ全2巻。説教者はもちろん、信徒にもぜひ読んでいただきたい。『説教黙想アレテア』108号～111号から書籍化。横組みとなつてより読みやすくなっている。

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 〈価格10%税込〉
<https://bp-uccj.jp>

東京女子大学日々の 礼拝メッセージ記録

〈評者〉 湊 晶子



愛の心を育む
大学チャペルでの
キリスト教講話
遠藤勝信著



東京女子大学では月曜日から金曜日までの一限と二限の間に十五分間の礼拝時間を取り、「讚美歌を歌い、聖書を朗読し、7〜8分のメッセージ」のひと時を歴史的に大切にしている。私が72年前の1951年に入学した時から変わりになく継続されている。本書は著者が2016年に本学のキリスト教の教師に着任されてからの7年間に語られたメッセージの中から30作を選び収録された記録集である。210頁の中に30作が納められた各メッセージは短く、物足りなさを感じるかもしれないが、文化庁登録文化財であるアントニン・レーモンド建築のチャペルのステンドグラスから差し込む光の荘厳な空間と、パイプオルガンに導かれる讚美歌の後に語られるメッセージは、心の琴線に触れるものばかりである。

遠藤先生が担当された日のメッセージの中から30作が選

「4」をテキストに、初めて聖書を手にした学生達にも伝わるように語られている。9「あなたが倒れないために」では、ポール・トゥルニエの言葉を引用しながら、「人格形成」の土台を示す。11「人生の土台づくり」では、「岩の上に自分の家を建てた賢い人」(マタイ七・二四)の例えを引用しつつ語るメッセージは若い学生達の人生の土台となるだろう。

2. 存在の意味と喜び

目次の5「仕え合う喜び」、6「誠実に愛し合う」、10「いまを感謝し、今日を誠実に」、13「いま、大切にしたいこと」、16「弱さと向き合う」、21「希望を失わず」、22「優先すべき課題」、30「歴史に聴き、明日に生きる」では、各々のタイトルに適した聖書箇所が明示され、学生達の心の琴線に触れるメッセージである。

3. SS精神・犠牲と奉仕 Sacrifice and Service

3「SS精神を育てる」、4「SS精神を生きる」、27「暗さの中でこそ、輝く光」、30「歴史に聴き、明日を語る」は、東京女子大学のみならずすべてのキリスト教学校の教育理念である。遠藤先生が本書において「SS精神とは、Sacrifice and Service『犠牲と奉仕』と明記し、「初代学長新渡戸稲造の縦のSを神と人の関係、横のSを個人と個

ばれ、説教題と聖書箇所が目次に記されている。一作ずつ紹介することは不可能であるので、次の三つのテーマに分類して紹介させていただく。第一に人生の土台と目的、第二に存在の喜びと意味、第三にSS精神・犠牲と奉仕 Sacrifice and Service である。

1. 人生の土台と目的

目次の7「キリストの心を育む」、9「あなたが倒れないために」、11「人生に目的を持つ」、12「人生の土台づくり」、13「キリストの模範」は、人生を生き抜くための土台についてのメッセージである。

それぞれのメッセージは短いですが、核となる言葉が含まれている。7「キリストの心を育む」では、東京女子大学の創立以来の教育目標である「知性よりも見識、学問よりも人格、人材よりも人物の要請」について「フィリピ二・1

人の交わりと定義した」(44頁)と本書において明確に説明して下さったことは貴重である。何故なら、東京女子大学に於いては、ある時期から英語表記が逆転し Service and Sacrifice となり、混乱して来たからである。創立100周年を迎えた今、100年史に明確に Sacrifice and Service と明記されたことは貴重であり、キリスト教の先生が、学生たちに語り続けて下さる意義は大きい。この問題点についてはまだ徹底されていないので、湊晶子著『現代を生かす 新渡戸稲造の人格教育』(キリスト新聞社、2023年)を参照いただければ幸いである。

著者の結びの言葉「この世の価値観と神の国の価値観との聞き合いの中で、いかに福音をお伝えするかという課題と向き合っています。だから、真剣勝負です」から、著者がいかに7〜8分のメッセージにいのちをかけておられるかが読み取れます。60年間いくつかの大学でキリスト教、キリスト教史を担当させていただいた者として、先生の真剣な眼差しによって必ずや学生たちの「人生の土台づくり」は実現されると確信いたします。

(みなと・あきこ) 広島女学院顧問・元東京女子大学学長

(新書判・二二六頁・定価二二〇円・ヨベル)

■教文館

旧約聖書と環境倫理

— 人格としての自然世界

マリ・ヨアスタッド著
魯 恩碩訳

旧約聖書に描かれた自然観とはどのようなものか。聖書テキストにおける自然を神と人間と親密に関わる活動的な存在として読み解き、釈義から環境問題を問う比類なき研究。
A5判・340頁・定価6050円

新約聖書の時代

— アイデンティティを模索するキリスト共同体

浅野淳博著

新約聖書のテキストの背景には、どのような歴史と社会が存在したのか。その時代史を理解するための初学者にも易しい入門書。
四六判・480頁・定価4620円

■キリスト新聞社

夕暮れになお、光あり

— 老いの日々を生きるあなたへ

小島誠志、川崎正明、上林順一郎、
島しづ子、渡辺正男共著

キリスト者として「老い」を生きるとは？ 高齢者の実存に寄り添いつつ、老いを生きる醍醐味、良く生きるための秘訣を熟練の牧師たちが聖句と共につづった『キリスト新聞』の人気連載を単行本化。
四六判・164頁・予価1650円

と世界』に七〇回にわたり連載された内容に加筆修正を施して遂に完成。邦語で類書のない極めて貴重な力作。
A5判・762頁・予価9000円

イザヤ書註解I

— 1章—10章

ジャン・カルヴァン著
堀江知己訳

イザヤ書註解は、カルヴァンにとって初めての旧約聖書註解であり、一五五一年に出版された。詩篇註解に比肩する膨大な分量であり、邦訳では全五巻となる予定。改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、どれほど真剣に預言書に取り組んだが如実に伝わってくる。
A5判・590頁・予価6000円

■日本キリスト教団出版局

聖書の祈り31

— 主よ、祈りを教えてください

大島 力、川崎公平著

旧新約聖書から、祈りの言葉、祈りに関する言葉を、1日にひとつずつ取り上げ、ゆっくり味わう31日分の黙想書。1日10分、心を高く上げる毎日を始めよう。
四六判・144頁(予定)・定価1650円

シンボルで味わう典礼・礼拝

宮越俊光著

諸教派の典礼・礼拝で用いられる所作、司式者の服装、祭具、典礼色や数字などの由来と変遷、用いられ方を紹介。日々

INFORMATION

近刊情報

贈りもの

— 晴佐久昌英クリスマス説教集

晴佐久昌英著

福音家族と呼ぶ共食の交わりを広げながら、福音を宣言する司祭として活躍し続ける著者によるクリスマス説教集。
四六判・138頁・予価1320円

牧師・大頭の焚き火日記

大頭眞一著

日曜日以外の隠れた牧師の日常を、ゆるゆるとした独特な語りによって描いた『キリスト新聞』の人気連載を単行本化。
四六判・156頁・予価1320円

神の民の解放

— 出エジプト記1〜18章による説教

松本敏之著

エキユメニカル神学、解放の神学、フェミニスト神学などを用い、コロナ禍、ウクライナ侵攻、日本における社会問題など、現代の教会が避けては通れない問いと向き合い語った、出エジプト記講解説教集・前編。
四六判・294頁・予価2200円

■新教出版社

牧会書簡

— 現代新訳注解全書

辻 学著

牧会書簡と総称される第一テモテ、第二テモテ、テトスの三書簡を徹底的に読み解いた世界最高水準の注解書。『福音

の典礼・礼拝をさらに豊かにするために。
A5判・248頁(予定)・定価3080円

人を育むむことば

— 教育のモデルとしての旧約聖書

W・ブルッゲマン著

現在の旧約聖書学を代表するブルッゲマンが、教育の根本を新たなアプローチによって旧約聖書から解き明かす。
A5判・240頁・定価3960円

遠藤周作366のことば(仮)

遠藤周作著

『深い河』や『沈黙』、『私にとって神とは』をはじめとする、遠藤周作の小説やエッセイから選りすぐった366の珠玉のことば。日々の黙想に最適。
四六版・160頁(予定)・予価1800円

これから生きるあなたへ

— 聖書の知恵 箴言31日

小林よう子著

「主を畏れることは知恵の初め」など、箴言31章の各章から選りすぐり、人生を豊かに賢く生きるためのメッセージを贈る。若い世代へのプレゼント本として。
四六判・80頁(予定)・予価900円

INFORMATION

近刊情報

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本 キリスト教書店大賞2023

大賞決定! 2022年1月~12月に出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員の投票により大賞が決定!



価格は10%税込 主催 キリスト教出版販売協会

大賞

LGBTとキリスト教 20人のストーリー

平良愛香 監修

定価2,200円 日本キリスト教団出版局

オススメ! 清光書店 飯尾千尋さん

LGBTについて学ぼうと思い拝読しました。LGBTにフォーカスされていますが、20人、あるいはそれ以上の方たちの力強い信仰の証し集と感じました。マイノリティ、マジョリティというボーダーではなく、キリスト者として他者と共に歩むには……を考えるきっかけになる一冊だと思います。

監修者 平良愛香

聖霊を受けて語り出した人たちがいました。たわごとだと思った人たちもいましたが、理解して喜んで人たちが思っていた人たちと、聴きたいと思っていた人たちが待っていたのです。

2位

ヤバい神

不都合な記事による旧約聖書入門
トーマス・レーマー 著 / 白田浩一 訳
定価2,420円 新教出版社

オススメ! 大阪キリスト教書店 美田嘉信さん

旧約聖書を解釈するために、私達は頭を悩ませます。この本は、深い信仰をもった著者により、敬遠しがちな旧約聖書に目を向けてくれます。

3位

老いと祝福

石丸昌彦 著 定価2,420円
日本キリスト教団出版局

オススメ! 名古屋聖文舎 伊奈均志さん

病と老いはだれでも不可避です。ポジティブに生きる指針に感銘。

4位

ビジュアル版 はじめての聖書物語

サリー・タグホルム / アンレ・ミルス 著
ブリアン・デナガ / ビイステラ
山崎正浩 訳
定価3,520円
創元社

5位

使徒信条 光の武具を 身に着けて

平野克己 著
定価1,430円
日本キリスト教団出版局

6位

日々を生きる力

あなたを励ます
聖書の言葉366
片柳弘史 著
定価990円
教文館

7位

どう読むか、聖書の 「難解な箇所」

「聖書の真実」を
探究する
青野太潮 著
定価1,320円
ヨベル

8位

何を信じて生きるのか

片柳弘史 著
定価1,430円
PHP 研究所

9位

たどりつくまで

ロバと三人の旅
アン・ブース文
サム・アッシャー 絵
真下弥生 訳
定価1,650円
新教出版社

10位

21世紀のキリスト教入門

一つの教会の
豊かな信仰
フスト・ゴンサレス 著
神代真砂実 /
高野佳男 訳
定価2,200円
教文館

11位

八木重吉 家族を詩う

日本キリスト教団
出版局 編
定価1,320円
日本キリスト教団出版局

書店名	郵便番号	住所	電話	ウェブサイト	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinken_syouen_0530@atn00.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区新136 東緑園センター174F	022-223-2736	共用		fcgwak524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉県千葉市中央区銀座4-5-1	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyodunkwan.co.jp	xbook@kyodunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdoo.com/	taihindoo@com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1日ヶ坂内(弥生門)	03-3260-5663	03-3260-5637	http://www.digitone.jp/yodanis/index.html	tokyo@nikkhan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mval.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用		sksch@yodanis.biglobe.ne.jp	00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市東区豊川16 味利スナック豊川駅前	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunshatai.co.jp/	nagoya-seibunshatai@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.ytdo.net/or/people/kyotan/	kyotadan@box.kyoto-inet.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakabooks.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三彌ビル2F	078-331-7569	078-945-9388	kobe@nikkhan.co.jp	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町1-2-7	082-208-0022	082-208-0177		hselbun0951@ahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017	http://www.geocities.jp/misyajana_1007/index.html	sksch@dokeidokline.jp	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/misyajana_1007/index.html	sksch@dokeidokline.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教書店	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kebookcenter@bible.or.jp	01780-4-39985
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinsaikan.jp/	info@sinsaikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハルルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-halenyu@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawabooks.net	info@okinawabooks.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2023年9月号

特集 反日——その思想・行動・倫理

寄稿者 早助よう子、友常勉、松井悠子

新城郁夫、申知瑛、丸川哲史

好評連載 八木重吉の聖書（今高義也）、私は告白する、私の神を（長尾優）、地域から考える在日朝鮮人史と教会史（金耿晔、グレート小林と三人の女（飯田華子）、神と「女性的なるもの」を辿って（後藤里菜）、古代イスラエル文学史序説（勝村弘也）ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyu-pb.com

編集室から

のだと思う。しかし、ご無理を承知で、企画意図を申し上げ再選出をお願いした。先生は四冊まで絞り込んでくださり、一冊を+aとして扱う提案をされ採用となった。

原稿をいただき入稿、校正へと進んでいく日々、ある新聞記事を見つけた。『個』の誕生（坂口ふみ著／岩波現代文庫）は今年文庫化された話題の書籍。それは先生が、三位一体の学びの五冊目として紹介されていた書籍でもあった。新聞は、ジェンダー問題の視点から書かれていた。

予告

本のひろば

2023年10月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）上田恵介（書評）齋藤篤・竹迫之著『わたしが「カルト」に？』、山口里子著『マルコ福音書をジツクリと読む』、ルイ・ギグリオ著『敵』に居場所を与えるな』、アドルフ・フォン・ハルナック著『マルキオン』、春名純人著『カルヴァンの救済の神学』、富坂キリスト教センター編『日本におけるキリスト教フェミニズム運動史』、水草修治著『私は山に向かって目を上げる』他

編集者は最初の読者になれる役得を与えられているが、両方を読み並べることができたのは貴重な体験。皆さんに新聞記事は読んでいただけないが、先生の五冊目のお薦めを筆者だけが知るのもつたいなく、この場を借りて文章の一部をご紹介したい。ぜひ、左記をお読みください。

「一見、厳格な神学的議論を形成する動機の中に、三位一体論の核となるかけがえない神格における『個』の位格の固有性理解の大切さを見抜き、共通の『本性』を共有する『個』の理解の深まりの内に、神のかたちに象って造られた人間の『個』とは何か、を考えさせる内容となっています。」（『三位一体を学ぶならこの三冊』初案『個』の誕生）紹介文より抜粋／坂井純人

（吉崎）

研究者・学習者
必読の書!



旧約聖書神学

小友 聡 監訳 K・シユミート 著
日高貴士耶 訳

歴史批判的研究は、旧約聖書テキストの多声性をどのように解明するののか？
その発展的加筆の跡には、イスラエルのいかなる神学的変遷を辿ることがで
きるのか？ 現在のスタンダードな研究成果を一望する、21世紀の旧約聖書
神学の決定版！

● A5判・上製・608頁・定価8,140円



教父哲学で読み解くキリスト教

キリスト教の生い立ちをめぐる3つの問い 土橋茂樹 著

2〜4世紀に活躍した東方教父（ギリシア教父）たちは、古代ギリシア由来の哲学的な考え方をどのように用いて、教義の土台となる「キリスト論」を形成したのか。キリスト教の根本思想の背景を明快に解き明かした入門書！

● 四八判・並製・240頁・定価2,640円



わたしの神学六十年

近藤勝彦 著

神学的探究の軌跡

神学的自伝「わたしの神学六十年」と、主著『キリスト教教義学』をめぐって語った講演と論文を収録。著者の神学的主張を理解するための最良の手引き。

● 四八判・並製・220頁・定価1,980円

オンデマンド版復刊

ユダヤ古典叢書

観想的生活・自由論

アレクサンドリアのフィロン 著
土岐健治 訳

イエスと同時代にエジプトの地中海都市アレクサンドリアで活躍したユダヤ人思想家フィロンの貴重な作。禁欲的なユダヤ教の一派であるエッセネ派とテラベウタイの信仰生活を紹介する。新約聖書成立の思想的背景を知るための格好の資料。

● A5判・上製・170頁・定価5,280円



ユダヤ古典叢書 世界の創造

アレクサンドリアのフィロン 著
野町 啓 / 田子多津子 訳

天地の創造から最初の人間の墮落まで、ギリシア哲学を自在に援用しながら、創世記を独自に解釈。キリスト教教父の聖書解釈にも決定的な影響を与えたフィロンの代表作のひとつ。巻末に「フィロン著作索引」「プラトン著作索引」を付した。

● A5判・上製・162頁・定価5,280円



命に通じる道

「山上の説教」講解

8月21日

最上光宏著 牧会者として「世のための教会」の形成に心血を注いできた著者が「今いかに主に従うか」という主の恵みへの応答の課題を「山上の説教」の22回の講解説教を通して考える。

◆小B6判・定価1650円



カール・バルト 《教会教義学》の世界

神の自由な恵みへの賛美!

7月11日



寺園喜基著 邦訳で36巻に及ぶ、20世紀の神学的記念碑ともいえるべき《教会教義学》の内容を、一般読者に向けて平易に解説。神学自体への無二の入門書でもある。

◆四六判・定価3080円

日本におけるキリスト教

大反響

フェミニスト運動史 1970年から2022年まで



富坂キリスト教センター編 この半世紀余の激動の時代を、詳細な年表と解説、コラム記事で丹念に辿る。また4人の女性の証言とインタビュー、さらにメディア表象、女性への接手の進展、結婚式文の問題、異性愛規範への抵抗など6つの重要課題を考察。

◆B5判・定価2750円

ユダヤ人も異邦人もなく

山口希生著 パウロ研究の新潮流 パウロの宣教とは？



信仰義認中心のパウロ理解に異議を申し立て20世紀後半から新約学界で激しい論議を呼んでいる「パウロへの新しい視点」(NPP)を徹底解説。

◆四六判・定価2475円

神と上帝

聖書訳語論争への新たなアプローチ

金香花著

19世紀中国の聖書翻訳論争と、その後の朝鮮語と日本語における聖書翻を手掛かりに、聖書翻訳とは何かに迫った意欲的な研究。◆A5判・定価4400円

本のひろば.com



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一三年九月一日発行 毎月一回一日発行
本のひろば 第七八九号 二〇一三年九月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3360-6148 振替00170-511679
発行人 金子和人 編集人 桑島大志 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話03-3360-6148

定価七八円(税抜七二円) (¥63円)
一年分一三〇〇円(送料共)